



2年普通科 総探アドバイザー授業

あふれる笑顔、生まれる対話、深まる思考 ～主体的・対話的な学びの深化～

2年普通科総合的な探究の時間では、5月21日から6月4日にかけて、総探アドバイザーとしてお招きした4名の先生に、各班の生徒と探究テーマについて対話を重ねていただきました。4名の先生はそれぞれ4つの分野別クラスに訪問し、各クラス2日間の日程で、すべての班からアイデアを聞き出し、より探究活動が深まるような新しい視点を提示して下さいました。地域と文化は柳本文弥先生（美浜町文化財保護審議会委員）、地域と産業は西山泰仙先生（(株)TierMind 代表取締役）、地域と防災は此松昌彦先生（和歌山大学教育学部教授）、国際社会と地域は向井忠晴先生（元御坊市立藤田小学校長）がアドバイザーを務めて下さいました。どの先生もまず高校生と対話することを楽しんでおられ、**これからの地域社会を支える若い世代に期待**を寄せておられます。**生徒の着眼点を尊重した前向きなアドバイス**をいただいたおかげで、生徒の探究活動がより活性化しています。6月11日、いよいよテーマ発表会を迎えます。

総探アドバイザー授業を終えて ～アドバイザーの先生・生徒からの声～

生徒のみなさんは、高校生らしく柔軟な発想で現在の社会を見つめ、感じた課題やその解決策等に向けて、活発に意見交換を行っていました。その姿は、見ていてとても頼もしかったです。未来を担うみなさんの行動に期待しています。

《アドバイザーの先生より》



テーマを決めるのに悩んでいましたが、アドバイザーの先生のおかげで助かりました。

《生徒より》



アドバイザーの先生は話しやすく、いろいろと役立つアドバイスをもらえて良かったです。《生徒より》

アドバイザーなどという役目は何一つできませんでしたが、みなさんの発想力の面白さに感銘を受けました。「地域を知ることは、この国を知ることにつながり、世界へと広がっていきます。みなさんの若さあふれる着眼点を活かして、この「地域」をアツと言わせる提言を期待しています。

《アドバイザーの先生より》

地方紙は地域課題の解決に役立つアイデアの宝庫

今年度の総探では**地方紙の活用**にも力を入れています。4月から5月にかけて、最初の2回の授業では、各クラスでインターネットでの情報検索の代わりに、紀州新聞と日高新報を読むことに集中する時間を取り入れました。最近の高校生の間では新聞離れが進み、生徒の多くは普段から地方紙に触れる習慣がありません。実際に新聞を広げ始めると、身近な地域に関する記事に引き込まれ、夢中で読む姿が見られました。また、新聞の記事を通して、地域課題や地域で現在行われている取り組みを知り、会話も弾んでいる様子でした。

